

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	みやき町立中原中学校	C : やや不十分である D : 不十分である
-----	------------	----------------------------

ふるさと中原と共に輝く志をもった生徒の育成
～自律・協働・挑戦をキーワードとした学校づくりを通して～

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none">○ 生徒一人一人に「自己指導能力」を身につけさせる生徒指導の推進○ 学力向上のための取組の充実・発展○ 「地域とともにある学校」の充実○ 生徒に「絶対的な安心感」を与える教育環境の整備○ 「学校組織力」の維持・強化と「働き方改革」の推進
------------	--

4 重点取組內容・成果指標

100

5 最終評価

(1)共通評価項目								
重点取組			具体的な取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価
●学力の向上	○「自ら学び」に向かう生徒の育成のための指導方法の工夫と授業の実践	○12月に行う生徒アンケートにおいて、「協働学習やICT(タブレットやインターネット)を通して、学びたい気持ちが高まった。」の項目において、肯定的な回答が80%以上	・「中型情報活用モデル」を通して、授業実践を行う。 ・校内研究会において、実践を共有する。	B	・「中型情報活用モデル」に関して、考え方を深める研修会を行うことができた。単元計画や指導案を通して活用を進めることができた。6月に行った成果指標におけるアンケートの肯定的な回答は75.7%であったので、さらに協働学習やICTの良さを実感させていきたい。	A	・「中型情報活用モデル」に関して、1人1授業研修や公開授業を通して、考え方を深めることができた。12月に行ったアンケートでは、成果指標にある項目の肯定的な回答は82.6%であった。6月のアンケートと比べ、6.9ポイント向上し、生徒たちは協働学習やICTを通して、学びに向かう力を高めているといえる。	A
●心の教育	●生徒が、自他の命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート調査で「いじめ・差別・暴力のない学校」と回答した生徒90%以上 ○アンケート調査で「友だちに思いやりの心をもって行動している」の項目で肯定的な回答をした生徒90%以上	・年度初めに道徳や学活の時間を使って、いじめのおこらないような学級、学年づくりに取り組む。 ・スクリーニング、教育相談等を活用して、心のSOSの早期発見を行う。 ・人権週間(人権集会)や「いのち・生き方を考える日」において、生徒主体の取組を行い、生徒朝会において全校で「いじめ撲滅宣言」を唱和し、人権感覚を磨く。	A	・2年生では、退後の時間に「いじめ」についての題材を取り上げたり、周囲のことを思いやる心について考えたりして、「いじめ」のない雰囲気作りに努めた。 ・7月に実施した「平和集会」の中で、高校生平和大使の方の話を聞く機会を設け、生徒に平和の大切さについて深く考えさせることができた。 ・生活アンケートや教育相談等を活用して、生徒たちの気持ちを聞き出すように努めた。	A	・生徒アンケートの「いじめ・差別・暴力のない学校」、「友だちに思いやりの心をもって行動している」の項目において肯定的な回答をした生徒はそれぞれ88.4%、86.1%。 ・12月2日から8日まで中原中人権週間にし、各クラスから選出された実行委員によって、企画から運営まで取り組ませることができた。生徒主体の活動を通じて、他の生徒たちもよく話を聞き、テーマについて考えることができた。	A
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○アンケート調査で「いじめ・差別・暴力がない学校になることを目指して指導している」と回答した教員90%以上 ○アンケート調査で「生徒に『役割・出番』を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」と回答した教員80%以上	・生活アンケートの取り組み内容の変更 ・道徳の授業を通して、道徳性を育成する。 ・学校行事や生徒会活動で生徒がより主体的に取り組む場を用意し、「役割・出番」「～承認～」「成長」というサイクルを実践することにより、生徒に達成感・成就感、自己肯定感をもたせる。 ・発達支持的生徒指導の推進を図り、主体的な選択や決定を促し、自己指導能力を身に付けさせる。	A	・生活アンケートの質問形式を変更して行うことで、生徒の記述が増加した。今後は、生徒の記述に足りて職員がどのように対応していくかを模索していく必要がある。 ・学校行事において、「役割・出番」「～承認～」「成長」のサイクルを意識した取組ができた。生徒がさらに主体的に活動できるよう支援していく。	A	・教職員アンケートの「いじめ・差別・暴力がない学校になることを目指して指導している」、「生徒に役割・出番を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」の項目において肯定的な回答をした教職員100%。 ・生徒の記述に足りて、担任や学生で共有し、生徒の実態に応じて、対応策を考え実行した。そうすることで、トラブルの早期発見や生徒が望む解決に向けて指導することができた。 ・各行事の「役割・出番」「～承認～」「成長」の経験を生かし、活動する姿が見られた。	A
	●①生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●②将来の夢や目標を持っているについて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学級活動や総合的な学習の時間等で、生徒に夢や目標を考えさせられる場面を設定する。 ・ナーミー活動では、地域のリーダーとして交流を通して地域に貢献しようとする態度を養うことができる。 ・職場体験学習や、高校調べ、職業講話等を通して、進路に対する意識を高める。 ・各種体験活動では、生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を組む。 ・ナーミー活動(中原ふれあい教育を進める会)を中心に、地域との交流を深める。 ・各種行事において、生徒が主体的に活動できる機会を設定するとともに、生徒への働きかけを行う。	A	・体育大会のリーダーやバス修習の実行委員など、学校行事で生徒が主役となって活動できる機会を設けることができた。 ・ナーミー活動では、地域のリーダーとして交流を通して地域に貢献しようとする態度を養うことができた。 ・職場体験を通して、地域の職業について興味をもち、働く意義や進路への意識を高めることができた。 ・高校説明会を通して、90%以上の生徒が、自分の進路をより具体的にイメージし、主体的に実現していくとする態度を養うことができた。	A	・生徒アンケートの「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」、「将来の夢や目標を持つている」の項目において肯定的な回答をした生徒はそれぞれ85.8%、81.9%。 ・総合的な学習の時間を利用して、職業調べや高校調べに取り組み、自分の進路について具体的な目標やイメージをもたらすことができた。 ・文化発表会や合唱コンクールの取り組みの中、多くの生徒が主体的に活動に取り組んだり、リーダーとして力を發揮する場面を設定することができた。 ・花いっぱい運動で地域の方と交流との交流を深めることができた。	A
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ○「朝起きたとき、朝ごはん」を呼びかけ、生徒達成率80%以上、保護者達成率90%以上 ○毎日の食事について、「毎日3回食事をする」児童生徒80%以上 ○給食後の歯みがきの励行を呼びかけ、生徒の達成率80%以上	・アンケートにより、実態把握を行う。 ・アンケートの結果より、改善の必要があると思われる生徒には個別で保健指導を行なう。 ・集会等で「生活習慣」や「食習慣」の保健指導を行う。 ・栄養教諭による給食指導を行う。 ・保健だよりや掲示物等で啓発活動を行う。 ・生徒会で食後の歯みがきを呼びかける。 ・生徒の歯を健康に保つために、フッ素に関する取組を行う。 ・歯科衛生士による歯みがき講話をを行う。	A	・学校生活アンケートを6月に実施し、1学期における朝食の喫食率は89.3%だった。 ・夏休み前の全校集会で「生活習慣」に関する全体指導を行った。冬休みなどの長期休業期間には同じく全体指導を行った。 ・1学期はフッ化物口腔の実施に向けた準備を行った。2学期からフッ化物洗口を実施する予定。 ・7月に歯科衛生士による歯磨き指導を行なった。 ・給食後の歯磨き達成率は10%だったので引き続き呼びかけを行う。 ・「健康に良い食事をしている!」毎日3回食事をするに関するアンケートを実施する予定。	A	・「健康に良い食事をしている」児童生徒は86.8%で目標の80%以上を達成することができた。 ・生徒、保護者アンケートの「早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣を意識して生活し、実行している」の項目において、肯定的な回答をした生徒、保護者はそれぞれ79.4%、89.3%。 ・毎日の食事について、「毎日3回食事をする」児童生徒は90.6%で目標の80%以上を達成することができた。 ・給食後の歯磨きの達成率は15%で目標には届かなかった。引き続き呼びかけや、実施達成率向上に向けた取組を行う必要がある。	A
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・週1回の定期退勤日を水曜日と設定し、掃除時間を削減した校時改革を行い、会議のない週を設定するなど定期退勤を促す工夫をしている。 ・夏季休業中及び冬季休業中に学校閉庁日を設定する。 ・週2回、部活動休業日を設定する。 ・チーム担任制を導入し、職員間で協働する意識をもつ。 ・成績2期制を導入する。 ・会議や配付物等において、ペーパーレス化を進める。	B	・今年度は、水曜日を定期退勤日と定め、週2回の部活動休業日の徹底を図った。 ・教師アンケートの「業務の効率化を図り、時間外勤務時間の削減に心がけ実践している」の項目で肯定的な回答をした教員は72.2%。 ・教師アンケートの「担任の校務分掌について、分掌メンバー内で分担して行っている」、「チーム担任制について、現実的な回答をした教員はそれぞれ77.8%、94.4%。業務に偏りが少なくなるよう、より改善する必要がある」。 ・校務分掌日を夏季休業は4日間、冬季休業は6日間設定した。 ・時間外在校時間が増加している教職員がいたため、削減させていくことが今後の課題である。	B	・週1回の定期退勤日を水曜日と定め、週2回の部活動休業日の徹底を図った。 ・教師アンケートの「業務の効率化を図り、時間外勤務時間の削減に心がけ実践している」の項目で肯定的な回答をした教員は72.2%。 ・教師アンケートの「担任の校務分掌について、分掌メンバー内で分担して行っている」、「チーム担任制について、現実的な回答をした教員はそれぞれ77.8%、94.4%。業務に偏りが少なくなるよう、より改善する必要がある」。 ・校務分掌日を夏季休業は4日間、冬季休業は6日間設定した。 ・時間外在校時間が増加している教職員がいたため、削減させていくことが今後の課題である。	B
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90%以上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90%以上	・特別支援教育の職員研修の実施 ・特別支援教育についてのセンター研修内容の共有 ・毎月の生徒指導協議会での情報共有 ・教室のUD化実施 ・関係機関との情報共有と支援内容の充実	A	・7月に特別支援教育の視点を取り入れた学級運営について職員研修を実施した。 ・特別支援教育コーディネーターが受けた、アドバイザーフォームアップ研修資料を全職員に回覧し、生徒への対応について職員の見識を深めることができた。 ・生徒指導協議会や生徒指導委員会の資料において情報を共有し、指導に生じた。 ・8月に特別支援学校へ巡回相談を依頼した。	A	・教職員アンケートの「特別支援学級等の配慮が必要な生徒について、個々の特性に応じた指導を行っている」の項目において、回答した教職員94.4%。 ・「特別支援教育に関する専門性が向上した」と考えている教職員73.6%。 ・8月に講師を招いて職員研修会を実施した。 ・研修を受講したことについての内容の共有を図った。 ・毎月の生徒指導協議会での情報共有を実施を行った。また、生徒指導委員会において、月に1度、特別支援教育に特化した内容を講じた。 ・教室のUD化について、今後も改善していく必要がある。 ・巡回相談の利用や、医療機関との支援会議を通して、生徒へのかかわり方にについての情報共有を行った。	A

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

10 of 10

重点取組			具体的な取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数量目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○生徒指導	○生徒指導・教育相談体制の充実 ○教育活動の中に、発育的生徒指導の手法を積極的に取り入れ、アンケート調査で「生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」と回答した教員80%以上 ○生徒の課題解決・自己実現に向け、年2回の教育相談の実施 ○生徒の情報交換を密にするため、組織力を強化し、週1回の生徒指導委員会の実施 ○学期ごとのスクリーニング会議の開催	○教育活動の中に、発育的生徒指導の手法を積極的に取り入れ、アンケート調査で「生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」と回答した教員80%以上 ・節目節目の黄金の1週間や、「役割・出番」→「承認」→「成長」というサイクルを教育活動全体で実践する。 ・年2回の教育相談を実施とともに、気軽に相談できる雰囲気づくりに努め、不適応や不安を抱えた生徒の早期発見に努める。 ・生徒の課題解決・自己実現に向け、年2回の教育相談の実施 ・生徒の情報交換を密にするため、組織力を強化し、週1回の生徒指導委員会の実施 ・学期ごとのスクリーニング会議の開催	A	・学校行事を中心とした各種面会での「出番・役割」をつくり、活動できる場の設定を行っている。それが「成長」とつながっている生徒もいる。今後も継続して行っていく必要がある。 ・4月から6月まで、各教育相談週を実施した。日頃から生徒職員や教育相談担当、新規就職相談等で連携し、気になる生徒の把握と共通支援チームで取り組むようになっている。 ・SCやSSWおよび関係機関と連携し、早期に対応する。 ・毎週生徒指導委員会を開催し、SCやSSWにも参加してもらい、生徒の情報交換を密に行うことにより早期解決を図る。必要に応じて不定期にケース会議を実施する。 ・スクリーニング会議を開くことで、要配慮生徒の把握や支援についての共通理解を図る。 ・SSR(スペシャルサポートルーム)を活用し、生徒の困り感に対応する。	・教職員アンケートの「生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」の項目において肯定的な回答した教員員100%。 ・学校行事を中心とした各種面会での「出番・役割」をつくり、活動できる場の設定を行い、生徒の成長につなげることができた。 ・外部人材や他機関との連携を密にして、生徒の情報網にあたっている。 ・学校を取り巻く状況が変化し、不登校生徒の増加やその対応が大変だと思われるが、保護者や他機関とも連携を取りながら、学校として組織的に対応していくが望ましい。	A	・生徒の主体性を大切にしながら指導にあたっている。そのことが生徒の成長につながっていると考えられる。 ・外部人材や他機関との連携を密にして、生徒の情報網にあたっている。 ・学校を取り巻く状況が変化し、不登校生徒の増加やその対応が大変だと思われるが、保護者や他機関とも連携を取りながら、学校として組織的に対応していくが望ましい。		
○生徒指導	○生徒指導・教育相談体制の充実 ○教育活動の中に、発育的生徒指導の手法を積極的に取り入れ、アンケート調査で「生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」と回答した教員80%以上 ○生徒の課題解決・自己実現に向け、年2回の教育相談の実施 ○生徒の情報交換を密にするため、組織力を強化し、週1回の生徒指導委員会の実施 ○学期ごとのスクリーニング会議の開催	○教育活動の中に、発育的生徒指導の手法を積極的に取り入れ、アンケート調査で「生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」と回答した教員80%以上 ・節目節目の黄金の1週間や、「役割・出番」→「承認」→「成長」というサイクルを教育活動全体で実践する。 ・年2回の教育相談を実施とともに、気軽に相談できる雰囲気づくりに努め、不適応や不安を抱えた生徒の早期発見に努める。 ・生徒の課題解決・自己実現に向け、年2回の教育相談の実施 ・生徒の情報交換を密にするため、組織力を強化し、週1回の生徒指導委員会の実施 ・学期ごとのスクリーニング会議の開催	A	・学校行事を中心とした各種面会での「出番・役割」をつくり、活動できる場の設定を行っている。それが「成長」とつながっている生徒もいる。今後も継続して行っていく必要がある。 ・4月から6月まで、各教育相談週を実施した。日頃から生徒職員や教育相談担当、新規就職相談等で連携し、気になる生徒の把握と共通支援チームで取り組むようになっている。 ・SCやSSWおよび関係機関と連携し、早期に対応する。 ・毎週生徒指導委員会を開催し、SCやSSWにも参加してもらい、生徒の情報交換を密に行うことにより早期解決を図る。必要に応じて不定期にケース会議を実施する。 ・スクリーニング会議を開くことで、要配慮生徒の把握や支援についての共通理解を図る。 ・SSR(スペシャルサポートルーム)を活用し、生徒の困り感に対応する。	・教職員アンケートの「生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」の項目において肯定的な回答した教員員100%。 ・学校行事を中心とした各種面会での「出番・役割」をつくり、活動できる場の設定を行い、生徒の成長につなげることができた。 ・外部人材や他機関との連携を密にして、生徒の情報網にあたっている。 ・学校を取り巻く状況が変化し、不登校生徒の増加やその対応が大変だと思われるが、保護者や他機関とも連携を取りながら、学校として組織的に対応していくが望ましい。	A	・生徒の主体性を大切にしながら指導にあたっている。そのことが生徒の成長につながっていると考えられる。 ・外部人材や他機関との連携を密にして、生徒の情報網にあたっている。 ・学校を取り巻く状況が変化し、不登校生徒の増加やその対応が大変だと思われるが、保護者や他機関とも連携を取りながら、学校として組織的に対応していくが望ましい。		

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・
次年度への展望

- 1月に学校評価アンケートを実施した。保護者及び生徒アンケートでは、すべての項目について肯定的な回答が過半数であり、おおむね好意的な評価を得ることができた。
- コミュニティースクール2年目にあたり、昨年度の反省をもとに、コロナ禍で薄れていた地域や保護者との連携した活動を、コミュニティ・スクール活動の一環として再考し、実施できた。
- PTA入会を任意性したことにより、本当に必要な活動を考え実行することができた。また、職員の負担軽減にもつながった。
- 本校の課題である不登校生徒への対応において、別室（スペシャルサポートルーム）の設置や、他機関との連携、職員の組織的な取組など、大きく前進した。
- 教職員の働き方改革の推進のため、衛生管理委員会等を活用し、業務の見直しを図ることで全職員が意識した取組を行うことができた。
- 次年度も継続して、主体的な学びに向けた授業改善、特別支援教育や不登校生徒への対応を含めた生徒指導、PTA改革、働き方改革に全職員で取り組みたい。